

シヨクカイ相場情報2022.05

国内野菜

全般

【根菜類】

○大根

現状、価格は安定しています。気温上昇に伴う品質低下により今後若干下げ相場になると予想されます。

○人参

徳島県産が潤沢に出回り、十分な流通量です。価格は前年と比較して安値で推移しています。

○玉ねぎ

佐賀県産が増産し価格が安定すると思われたものの、中国産の玉ねぎがロックダウンの影響で数量が少なく、国産の引き合いが強まり高値相場が継続しています。前年と比較して2倍以上での価格推移です。

【葉茎菜類】

○白菜

予想より流通量が少なく、高値で推移しています。気温の上昇により引き合いは弱くなり相場は下がる見込みですが、数量減少により高値継続の可能性もあります。

○キャベツ

関東産が潤沢な出荷量で、数量は前年比・例年比共に微増しています。温かくなるにつれ、相場は下がる見込みです。

○ほうれん草

順調に生産されています。価格も例年並みで落ち着いています。

【果菜類】

○胡瓜

群馬県産・埼玉県産等関東産の生育が順調です。4月末の悪天候により、5月上旬の出荷量は若干減る見込みです。価格は安定しています。

○茄子

減産であった前年よりは流通量はやや増えています。各産地共に安定した生育で、今のところ大きな問題は見られません。

輸入野菜

ほうれん草

昨年秋シーズンの生産量が史上最悪な状況であったことから、今シーズンの生産量は昨年秋よりは大幅に上がっています。各工場とも増産体制に入っており、生育も順調ですが、価格は未だ横ばい・高値傾向で落ち着いています。

菜の花

今シーズン前期は気温が低く収穫量が減少傾向でした。後期は気温が上昇したことで収穫量が増え、品質および数量については安定供給が見込める予想です。価格も昨年並みで落ち着いています。

玉ねぎ

原料相場が暴騰しており、在庫も僅かです。更に、一部産地の減産により、高値相場が堅調に推移しています。新型コロナウイルスによるロックダウンで稼働できない工場もあり、山東省産の収穫が終了するまで高値相場が維持される見込みです。

アスパラ

主産地である山東省では低気温が続いているため、収穫が2週間ほど遅れました。現在も原料不足により断続的な稼働状態です。他産地である河南省でも栽培を行っていたものの、新型コロナウイルスによるロックダウンで物流が遮断された結果原料の調達に滞っており、生産が立ち行かなくなっています。減産傾向の為、価格は高騰しています。

キヌサヤ スナップ ピース

作付面積は例年並みです。生育がやや遅れ気味で、早期収穫のスナップピースは4月中旬から収穫が始まっているようです。新型コロナウイルスの影響で原料運送の時間が長引き、工場での加工が間に合わない可能性が出てきています。減産傾向の為、価格は高騰しています。

畜肉

鶏肉

4月中旬にまん延防止等重点措置が解除され、飲食店など外食需要も期待されましたが、一定の自粛傾向は継続しており量販店需要が続いています。

輸入品は、ロシアによるウクライナ侵攻で穀物・飼料相場の高騰、豚肉価格高騰のあおり、欧米での鳥インフルエンザまん延等によりブラジル産を中心に需要が拡大、相場も上昇が続いています。急激な価格高騰から、一部では投機対象にもなっているようです。輸入品の国内需要は相場の上昇とはリンクしておらず、まん延防止等重点措置解除や春の行楽の特需もあまり見られませんでした。それでもコロナ禍においてから揚げ専門店や量販店の総菜需要の裾野は拡大しているようです。輸入品は世界的な需要の高まりを受け、価格・供給の両面が不安視されています。国内在庫とのバランスに注視が必要と思われます。

豚肉

4月は例年、春の行楽需要などが見込まれるものの、今年はまん防が解除されはしましたがゴールデンウィークに感染再拡大の警戒もあり需要は不透明感が強まっています。更に4月からの食料品や生活用品の相次ぐ値上げを受け、全体的に消費マインドが冷え込んでいることから盛り上がりには期待できない状況です。一方で、少なめの出荷頭数や豚熱などの疾病への懸念に加え、輸入品においてもチルド・フローズンともに先高が確実視されている為、4月は在庫確保の意図もあり、凍結回しの動きが強まるとみられます。これを勘案すると相場の下げ要因は少ない状況です。

牛肉

まん防が全面解除されたことを踏まえ、前月は決算期ながらも飲食店やホテル関係など業務用筋からの引き合いが開始、枝肉相場も月後半から少しずつ待ち直し基調となりました。それでも、末端需要は接待やインバウンド需要の減少等コロナ以前の状況には戻り切っておらず、むしろ相次ぐ物価上昇と景況感の悪化から和牛上位等級のロースなど高級品ほど動きは弱い状況です。輸出需要の伸び悩みによる影響も大きいです。今後入船遅れなど不安定な供給状況が継続する見込みで、ゴールデンウィーク明け以降の需要の鈍化と円安による影響も心配されることです。

魚介

鮭鱈

【鮭・鱈】

鮭原料は、国産・ロシア産・米国産共に原料価格は高値で推移しています。また、加工製品に関しては品薄状態が続いています。鱈原料は、今期のロシア産の漁獲高が順調だった事を要因として、現状、鮭鱈類では鱈が安値となっています。

【チリ銀鮭・トラウト】

チリ銀鮭原料は、輸入量の減少による高値品薄の状況で、製品価格も同様に値上がりが継続しています。

サバ

今シーズンのルウェー産・アイスランド産等の欧州サバ原料は、漁獲量の減少も要因として原料買付価格が高騰しています。併せて製品価格も値上がりが継続している状況です。製品量も品薄状態となっています。

タラ

白身カレイ

(アブラカレイ)

赤魚

助宗タラ・白身カレイ(アブラカレイ)は原料価格の値上がり、為替変動、貿易諸経費増等の影響により、製品価格にも反映され、高値相場で推移しています。

赤魚原料は供給量の減少による高値推移となっており、輸入コストの上昇も伴って製品価格も同様に値上がりとなっています。

※2022年4月末日現在の予測に基づいて作成しております。